

**発足当初**  
一九六二年、西陣会は正  
式に(当時は財団)法人とし  
て、発足する。土地は、元  
四丁目の現在、旧館と児童  
館が建つ土地である。故竹  
中正夫先生らの尽力により、  
神学教育基金(TFF)より、  
五五〇万円の援助がなされ  
た。しかし西陣会は当時法  
人格をまだ得ていなかった  
ため、学校法人同志社が土  
地の登記をし、西陣会に、  
無償貸与をするという形を  
取った。また、建物は、多  
くの方々の支援ご協力を  
よって、現在の旧館が、西  
陣労働センターという名称  
で、設立された。しかしこ  
の結果七五〇万円の借り入  
れという、大きな重荷を出  
発当初から背負うこととな  
った。ちなみに、現在の  
円の価値からすると十倍ぐ  
らいである。いかに大きかっ  
たかがわかる。

# 無謀な決断

理事 水谷 洋 一

けでも、西陣会は設立当初  
から、いかに多くの人々の  
祈りと支えによって、成り  
立っていたかをうかがい知  
ることが出来る。結果的に、  
〇から二〇〇〇万円、現在  
の価値にすると二億円の事  
業を生み出したことになり、  
この開拓者たちのとてつも  
ないエネルギーを感じる。  
きつと皆で集まり、額を寄  
せ合いながら、何が大切な  
のか、何から始めるべきな  
のかと議論を重ね、突き進  
んでいったのである。た  
だ、冷静に振り返ってみる  
と、そのすゝさは、時によっ  
ては無謀ともいえたのかも  
しれない。

## 児童館建設

先にも述べたように、こ  
の土地の名義は、学校法人  
同志社であった。しかし  
歳月が流れる、当時の事情  
を知る人も少なくなってい  
た。そこで、一九七九年に  
学校法人同志社に土地の無

償譲渡をお願いした。幾  
多の紆余曲折もあったが、  
一九八〇年に、土地の所有  
権移転の登記を無事完了す  
ることができた。このこと  
により、児童館建設が現  
実味を帯びることとなっ  
た。おりしも発足当初から  
重荷となっていた、借入金  
の返済もあとわずかになっ  
ていた。事業計画は、約  
八〇〇〇万円。  
もちろんというか、またし  
てもというか、〇からのス  
タートであった。京都市へ  
の申請、寄付金のお願ひ等  
を経て、一九八一年、児童  
館は建設された。この際に  
も、内部関係者、教会関係  
者、西陣業界の皆さまをは  
じめとして、本当に多くの  
方々のご尽力とご協力をい  
ただき、そのたまものとし  
て、児童館は生まれたので  
あった。結果、一二五〇万  
円の借入金が残った。当時  
の金利は9%、信じられな  
いほどの返済額となり、後  
の財政を圧迫した。この事  
業も、無謀に近いものがあ  
ったと思う。しかし、無謀と  
もいわれる決断をしながら  
も、多くの人々の祈りと支  
えに励まされながら進んで  
きたのが西陣会だと思ふ。

**近年**  
二〇〇三年の支援費制度  
開始を受け、西陣会も急激  
に事業が拡大され、職員数  
も増加した。財政的にも少  
し安定するようになった。し  
かし顕著な手狭さをうけて、  
東隣地を購入し、二〇〇六年  
に新館を建設した。また事業  
拡大に向けて、二〇一二年に  
隣地を購入し、西館として改  
築を行った。また、二〇一五  
年西亀屋町の物件の購入も  
行った。不動産の購入が続き、  
現在、財政的な余力は、あ  
まりない。

**今 後**  
東日本大震災の後、建築  
基準法が改正  
され、旧館  
と児童館の耐  
震工事が求  
められてい  
る。ここで  
は省略した  
が、三十年  
記念の時に  
六〇〇〇万  
円ほどかけ  
て修繕して  
いる。(耐震  
工事ではない  
果たしては  
かた数千円  
をかけて、耐  
震工事をす  
る値



大賑わいの流しそうめん (西陣児童館)

ホームページのリニューアルが遅れています。  
(完成次第お知らせさせていただきます。)

センター  
便り

# 絆

きずな

## 第167号

発行所  
社会福祉法人  
西 陣 会

HP: <http://www.nishijin.org>  
E-Mail: [nishijinkai@nishijin.org](mailto:nishijinkai@nishijin.org)

〒602-8464  
京都市上京区元誓願寺千本東入ル  
TEL (075) 451 - 8971  
FAX (075) 451 - 5700

発行者: 水 上 雄 一 郎  
編集責任: 浅 田 将 之

郵便振替口座  
01030-5-23086

ホームページでも  
ご覧になれます

当法人への寄付  
金は、課税控除  
対象となります  
ので、その為の  
受領書が必要な  
方はお申し出下  
さい。

打ちがあるだろうか。しか  
し、旧館を建て替えるには、  
重機が入らないため、児童  
館もつぶさねばならない。  
つまり、旧館(デイ)と児童  
館の両方の建て替えが必要  
である。解体撤去費用も含  
めると二億五千万円の覚悟  
が必要だと考える。

ここは、皆で集まり、額  
を寄せ合いながら、何が大  
切なのか、何から始めるべ  
きなのかと議論を重ねる時  
である。

では、水谷はどう思う。  
……無謀な決断をするとき  
かな。



寄稿

# 「福島と関西連」

福島県被災地における障害福祉サービス基盤整備事業  
アドバイザー派遣事業 事務局 浜通り担当コーディネーター  
古市 香苗



きました。

震災当時、いわきの支援をしていた私は、双葉郡から避難された方を、どのよう支援できるのか、数も見えない中、とりあえず相談のあった方に対応するものでした。県の事業である事務局に参加することで、福島県全体での避難者の動向、各圏域での課題を目的にすることとなり、圏域を束ねるアドバイザーがいかに地域の要となるのか、学びました。その時の関西連は、相談支援・充実強化事業という別事業の枠組みの中で、双葉郡の行政を通して、住民に直接繋がりを、生の声を拾い上げてくれました。その流れの中で、子供の受け皿不足、家族のレスパイトを兼ねて、預かりの場所の創設に関わってくれました。この場所は、現在も復興予算の枠組みの中で、継続して行われています。

化から、事務局へと変わり。今年、原発被災の浜通りに主軸を置くため、継続して関わっている相馬圏域の他に、多くの方が避難しているいわき市と双葉郡とを繋ぐ活動をしてもらっています。丁度、私自身が退職し、双葉郡に住まいも職も移したことから、浜通り担当の話をしていただき、関西連とともに仕事をしています。

市に向かないと揃わない。医療機関も平日日中しかやっていない。震災瓦礫のゴミ袋が積まれた土地に囲まれて、生活する町。どの基準を持って、安全安心に暮らせる町と言えるのでしょうか。

古市香苗さんは、細やかな心配り、一本芯がある、まっすぐで大胆、猫好き、卓球の愛ちゃん(笑顔が似ています)、等等、いろいろな顔を持つ人です。いろいろな顔を持ちながら、支援者としては、中庸な姿勢で向き合い、支援がなければ開拓してご本人に届けようとしています。勉強熱心で、面白い研修を見つけたら休日にも各地を飛び回り、周囲が体を心配するほどです。一方で、よく遊び、自分自身も楽しむことを忘れません。私がついて支援者都合の発言をすると、「本人は？」と指摘してくれ、いつも支援者としての基本的な姿勢を教えてもらっています。尊敬する支援者の一人です。古市さん夫妻が故郷の楢葉町で暮らすということを選択したとき、私も当初は戸惑い、心配しました。しかし、楢葉町、広野町で生活することを決めた方たちとの出会いがあり、「必要だから支援する」という姿勢はこれまでのお二人の仕事ぶりをみると自然な流れだと思えます。心配は尽きませんが、一緒に歩む仲間であってほしいです。

# 地域生活支援センター

西陣会居宅サービス係

## おなじ・つながり

サービス提供責任者 永瀬 健太郎

二〇一三年の福島県双葉郡川内村「サロンどじょう」の応援活動で共に活動に入った京都・奈良の仲間達数名で、七月末、二泊三日で福島県を訪れた。一昨年も同じような形で行って頂いており、今回は二泊三日間の応援活動を通じて現地でのつながりのある方々と郡山市での祭りや福島市での流しそうめん。三日目、「サロンどじょう」を訪問。三年前に私の作った「どじょうの歌」を今でも毎朝歌って下さっている。本当に嬉しく思っています。今回も二泊三日、再会や、新しい出会い、色々と素晴らしい交流をさせて頂き、皆様に本当に感謝しております。

川内村に隣接する葛尾村を最後に訪問。帰還困難区域を除き今年六月に避難指示が解除されたばかりの村。村役場で働くご夫婦と、郡山の祭で新しい出会いがあり、三度目の福島にして初めての訪問。現在の帰村状

京都に帰ってすぐ、手紙が届く。田村市の作業所に通われ、グループホームで暮らしながら郡山の祭りの新しい出会いの方。詩が趣味とこのことで、手紙に三つの詩が添えられています。一つ、紹介させて頂きました。『詩(出会い)』



サロンどじょうにて

出あえたことで 今年の夏の思い出は ふかまったものがある。私との出会いがテーマの詩。遠藤まさ子さん、ありがとうございます。私は日々仕事で、当たり前の日常生活に必要なお手伝いをさせて頂いている。その一つ一つが大切な出会いであるという、当たり前のことを改めて思う。単なる仕事ではなく、大切なことは、つながりを大事に、同じ時代・社会を共に支え合い、共に生きていることを実感すること。誰もがそう安心して感じ合える社会を目指して、これからも居宅サービス係の一員として地域生活支援をしていきたい。

## 利用者様と共に健康に

ユニットリーダー 五十嵐 伸治

今年の夏も暑い日々が続きました。利用者様が元気に通所して下さるよう、デイセンターふらつとでも色々取り組みをしております。まず体調管理として、毎日の来館時、退館時の検温、服薬の変更、ご様子などを健康管理台帳に記載しています。また、月単位での看護師による体重・血圧測定。年単位では、希望者による集団歯科検診や健康診断を行っています。

健康診断は二〇一三年度から再開しました。今年度で四回目になるのですが、過去三回は私が担当となっていて、行ってきませんでした。利用者様によつては、血液検査(採血)が苦手な方や、心電図がうまく取れない方、レントゲン検査が難しい方など様々いらっしゃるのですが、回数を重ねることに、受けられる検査項目が増えてきて、一回目は検査室に入るのに数時間かかった方が、今年度は全検査を一時間ほどで終わられた時は、私自身感慨深いものがありました。(同行した新入職員はきょとんとしていました。)

が、その多くは利用者様が自身の力、経験を積み重ねたことによる安心感の獲得や、検査に対する理解を深めてくださったことが一番の要因だと思えます。やっぱり経験していただくことは大事で、私たちはその手助けをすることに意味があると思えました。あと課題としては、視力検査がうまくいかない方が多い事です。検査機を覗けない。覗いても意味が分からない。言葉で伝えられない等、様々なことがあり、毎回、来年こそ考えて何とかしようと思つては下さるのですが、今年こそ何とかしたいと思つています。視覚支援も、視えてなければ根本から考え直さなければいけないのですから。また今年度は、インフルエンザの集団検診も考えています。



ショートステイゆう

その人の空間を「ゆづ」に

宮本 葵

今年度からショートステイゆうの担当者になり、六月に初めて新規ご利用者の受入を担当させて頂きました。普段通所されている事業所に訪問しご本人にお会いしたり、ご自宅や通所先での過ごし方を伺いながら、ゆうでどのようにならして頂けるかを考え準備を進めていきました。通所先やご自宅では、先の予定が分かりやすいように提示をされている絵カードに新しく「ゆう」を追加し、そのカードで宿泊をご本人に伝えて頂く事になりました。

う……と考える事があります。新しいカードにワクワクされたかも知れませんが戸惑いや不安を抱かれたかも知れません。そんな中でも、ご本人は笑顔でゆうの扉を開けて下さいました。ゆうの居室に、自分の空間を見つけて下さいました。この方のゆうのスタートに携わる事が出来た事を本当に嬉しく思います。

めいぶるクラブの今期活動が始まり、既に二ヶ月近くが過ぎました。毎回、多くの仲間がいもをご購入いただき有難うございます。今回、センター便り「絆」への寄稿のご依頼をいただき、先ず改めてワイズメンズクラブについてご紹介させていただきます。

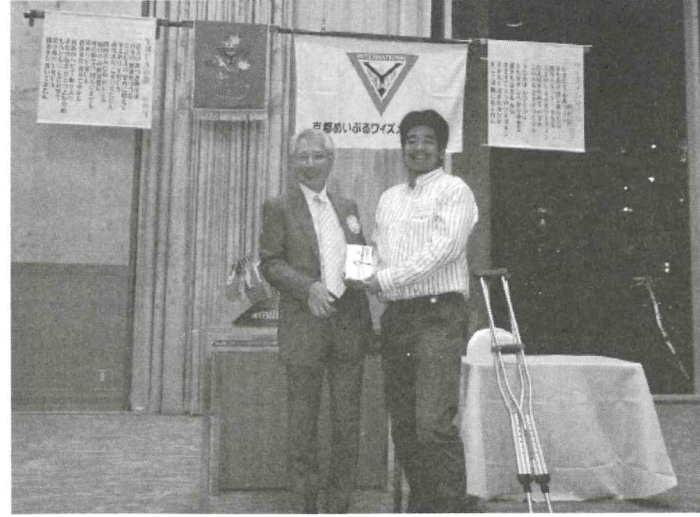
時既に西陣会(京都市民福祉センター)との係わりがあり、西陣会もキリスト教の隣人を愛することによって平和と正義が確立される理念に根ざしておられ、YMCAとの関係からクラブ設立間もない頃に支援させていただくことになったと聞いており、貴会との係わり、支援させていただく中で他の社会福祉法人が行っていないな

様にもご購入いただいているじゃがいも販売や他物品販売の収益が活動資金の原資となつて、貴会への「ふらつと事業助成金」贈呈や春の桜まつりの支援、先にご紹介したYMCAの支援、他の福祉施設や団体のサポート、更にYMCAを通じて災害の復興支援金に充てられています。私が入会した当時、水谷元館長以下、浅田現館長や宮崎所長が、まだ、一般職員やボランティアで活動されていたことを思うと、貴会のご発展は著しく、今後

地域活動支援センターふらつと

「地活ふらつと」の係わり

京都めいぶるワイズメンズクラブ 第三四期会長 松村 康弘



8月22日 助成金贈呈式(地活ふらつと)

支援センター「きりんく」

「通所施設の送迎課題」

主任 佐藤 匡

夏過ぎから秋にむけて各総合支援学校高等部では進路調整が本格化していく時期になります。この時期や学年に限らず時折支援センターには、保護者から「どんな通所施設があるんですか?」との問い合わせを受けることがあります。北都圏域(北区・左京区)で感じている課題について書かせていただきます。

かと感じています。また送迎に関するもう一つは、生活介護事業所以外ほとんどの事業類型で送迎を実施していないと言うことです。このため「作業はできるのに、作業をしていない」と思っている所に通いたい。と思っても、自主通所ができません。親の自家用車送迎に利用することができません。親の自家用車送迎に利用することができません。親の自家用車送迎に利用することができません。

支援センター「こっこ」

「親子後の暮らしぶり」

相談員 鶴山 良子

今回のテーマで書かせて頂くと思ったのは、担当させて頂いていたご利用者のお父様が亡くなったことがきっかけです。初回相談に来られた際のお父様の印象は、突然奥様が亡くなり、仕事一筋で、ご本人にあまり関わったことがなかったのに、ご本人の全てを任せられ、途方にたれていくような感じでした。

三年前から娘が一人暮らしを始めた。予想していたより長く続いていき、でさけないだろと思っていた事ができるようになり、成長を感じること多くなり、自閉症の特性が強く、決めた事を変更することが苦手で、そのた



海水浴(デイセンターふらつと)



### 路地裏ステーションニュース

## 西陣児童館

# 「児童館で生まれた出会い」

本多 智美

「児童館」と聞くと、皆さんのイメージはどのようなものでしょうか？  
西陣児童館では、年間を通して多くの行事を行っています。八月六日には、毎年恒例の流しそうめん大会を行いました。

当日は、学童クラブの登録児童・保護者の方々、乳幼児さん親子、中・高生のOB・OGさん、幅広い年齢の方々の参加がありました。流しそうめん大会には、情報紙で流しそうめん大会があることを知り、様子を見て、前日に初めて遊びに来て下さった方もいました。二人のお子さんもおられ、初めは元気な学童クラブの子どもの様子の子たちが声をかけ、幼児さんと一緒に遊んで遊び始めました。いつもレゴで大作をつくっている三年生の男の子も、そのお母さん・幼児さんから「すごい！」と褒められると嬉しくなりました。一緒に遊んであげました。その間に、お母さんもお手伝いができたら良いなと考えています。

「児童館」と聞くと、皆さんのイメージはどのようなものでしょうか？  
西陣児童館では、年間を通して多くの行事を行っています。八月六日には、毎年恒例の流しそうめん大会を行いました。

当日は、学童クラブの登録児童・保護者の方々、乳幼児さん親子、中・高生のOB・OGさん、幅広い年齢の方々の参加がありました。流しそうめん大会には、情報紙で流しそうめん大会があることを知り、様子を見て、前日に初めて遊びに来て下さった方もいました。二人のお子さんもおられ、初めは元気な学童クラブの子どもの様子の子たちが声をかけ、幼児さんと一緒に遊んで遊び始めました。いつもレゴで大作をつくっている三年生の男の子も、そのお母さん・幼児さんから「すごい！」と褒められると嬉しくなりました。一緒に遊んであげました。その間に、お母さんもお手伝いができたら良いなと考えています。

## 「ういず」が大切な居場所であるために

藤賀 一暢

暑い暑い夏が終わり、夏と言えばやっぱり夏休みです。夏休みは、夏休みをどんな思いで過ごしたのでしょうか？

「ういず」は子ども達が長期休み中、九時〜十八時で開所させていただいていますが、利用する時間はそれぞれですが、ほとんどの子どもが一日を過ごしています。

折角の夏休みだから普段できない体験を！と、私たちはいろいろな企画・活動を考えます。弾ける笑顔が見たいという一心で、「遊び」の限界を追求します。しかし、そこには二つの大切な視点があることを忘れてはいけません。

一つは「子ども自身がどのように感じ、受け取っているか」という視点です。初めてのことにチャレンジしてみたいのか、いつもと同じように過ごしたいのか、たくさん体を動かしたいのか、ゆっくりしたいのか、一人ひとりの思いがあり、感じ方があることを尊重しています。

もう一つは「生活全体の一部分」という視点です。

お家から来てお家に帰る、お家に帰る前にヘルパーさんとお出かけする、短期入所施設で宿泊してからの、同じ「ういず」で過ごす一日でも、その前後の生活スタイルは様々です。また最近では多くの子どもが、放課後等デイサービスを併用しています。

「ういず」を利用していない時はどこでどんな風に過ごしているのか、常に思いを巡らせています。

一人ひとりの生活全体を見渡し、その中で何を考え、何を思っているのか。この二つの視点を持つ上で、親御さんから連絡帳や送迎時・お電話でのやりとりを通して教えていただくこともたくさんあります。またその子に関わ



カラオケ大会〜輪になって踊ろう♪ (タイムケア事業「ういず」)

他機関との密な連携も必要不可欠です。  
様々な繋がりを大切に、今後も二つの視点を持って、子ども達がお家やその他の場面でも穏やかに過ごせるよう、そしてご家族も含めた生活や子ども達の将来がより良いものになるよう、その日その時に「ういず」が求められる役割をはたしていきたくと、改めて感じた夏でした。いつでも「ういず」が大切な居場所であるために……

## 活動日誌

### 【本部業務・公益事業】

- 7月 12日 月曜集会 人材育成検討委員会
- 7月 18日 30日 福島県アドバイザー派遣事業で福島へ(浅田)
- 7月 25日 元四会総会(宮崎) 産業医面接相談会 月曜集会
- 8月 1日 社会福祉法人経営者セミナー(宮崎・土屋)
- 8月 20日 元四丁目地蔵盆足洗(中山)
- 8月 21日 小松原地蔵盆(浅田・西亀屋町地蔵盆(浅田・五十嵐))
- 8月 22日 産業医面接相談会 登用試験
- 8月 23日 月曜集会
- 8月 24日 月曜集会
- 8月 26日 月曜集会
- 8月 29日 月曜集会 人材育成検討委員会
- 9月 12日 月曜集会 産業医面接相談会
- 9月 26日 産業医面接相談会
- 9月 29日 総務委員会
- 10月 26日 月曜集会
- 11月 26日 月曜集会
- 12月 26日 月曜集会
- 1月 26日 月曜集会
- 2月 26日 月曜集会
- 3月 26日 月曜集会
- 4月 26日 月曜集会
- 5月 26日 月曜集会
- 6月 26日 月曜集会
- 7月 26日 月曜集会
- 8月 26日 月曜集会
- 9月 26日 月曜集会
- 10月 26日 月曜集会
- 11月 26日 月曜集会
- 12月 26日 月曜集会

### 【居宅サービス係】

- 8月 2日 学童クラブの保護者説明会 天神さん
- 8月 4日 御所へのお出かけ
- 8月 9日 子どもの楽園 梅小路公園と京都水族館
- 8月 12日 3年生以上イベント
- 8月 18日 第1プロックドッジ&ゲームフェスティバル
- 8月 24日 防災センターお出かけ
- 9月 3日 基幹ステーションイベント「カプデ遊ぼう」
- 9月 17日 出前児童館in橋公園
- 9月 21日 8日、21日、26日 京都府放課後児童支援員認定資格研修(鬼塚)
- 7月 10日 西館&フライデー上京BBQ大会
- 7月 14日 Q大宅
- 7月 15日 京都市居宅介護等事業連絡協議会事務局会議 定例会(浅田・永瀬)
- 7月 16日 上京区障がい児者支援ネットワーク(以下上京ねっと)運営委員会(永瀬)
- 7月 25日 GH意見交換会
- 8月 5日、6日、7日 京都市知的障がい者ガイヘル研修

### 【きらりんく】

- 7月 7日、13日、14日、21日 集団活動企画「琵琶湖湖水浴」
- 7月 8日 相談支援従事者初任者研修(近藤)全6日
- 7月 22日 上京ねっと運営委員会(永瀬・高田)
- 7月 22日 中部障害者自立支援協議会第一回GH専門部会
- 7月 22日 GH意見交換会
- 7月 26日 上京ねっと定例会(ヘルパーさん向け学習会)
- 9月 11日 西館&フライデー上京合同流しそうめん大会
- 9月 13日 上京区障害児者生活支援連絡会(岡田瑛)
- 9月 14日 居宅介護等事業連絡協議会・生活介護等事業連絡協議会合同学習会「障害者差別解消法」
- 9月 16日 京都府障害者虐待防止・権利擁護研修(尾崎)
- 9月 24日 ヘルパー研修「障害者差別解消法」
- 9月 26日 GH意見交換会
- 7月 4日 強度行動障害支援者養成研修(五十嵐・高田)
- 7月 7日 OJTフォローアップ
- 7月 12日 上京区障害児者生活支援連絡会(本林)
- 7月 16日 社会福祉・介護福祉士懇談会(大富)
- 7月 19日 生活介護等連絡協議会(本林)
- 7月 26日 共有会議
- 8月 8日 相談支援従事者初任者研修(藤本・池内)
- 9月 12日 左京区介護事業者連

### 【にしじん】

- 7月 7日 中部自立支援協議会事務局
- 7月 13日 基幹支援センター会議
- 7月 21日 医療的ケア専門部会
- 7月 22日 基幹支援センター会議
- 7月 22日 医療的ケア部会懇談会
- 7月 22日 中京権利擁護ネットワーク会議
- 8月 3日 医療的ケア専門部会
- 8月 12日 非定期調整会議
- 8月 18日 基幹支援センター会議
- 8月 19日 京都市児童専門部会
- 8月 30日 京都市児童専門部会
- 8月 31日 中京区難病ワーキンググループ会議
- 9月 1日 自立支援協議会総会
- 9月 8日 相談支援従事者初任者研修講師派遣
- 9月 16日 キルアップ研修講師派遣
- 9月 27日 福祉避難サポート養成研修講師派遣

※毎月、施設長会議・財務会議・主任会議を実施しています。  
その他、諸事業諸活動においても定例活動を行っております。



# 地域における公益的な取り組み 町内のお祭り「地藏盆」

京都市民福祉センター 館長 浅田 将之

シェアハウス小松原の家で三人が生活を始められて十月で一年を迎えています。それぞれの部屋で、思い思いに過ごされ、必要なところでヘルパーの支援を使われています。また、それぞれ自主的にみんなのためにできる役割を担われ、掃除、食器洗い、洗濯、その取り入れやたたみ等、協力しながら暮らしておられます。

三人とも四月から町内会に入られたことから、回ってきた回覧板をヘルパーに説明してもらい、町内の地藏盆があることを知られました。そして「八月二十一日の地藏盆に参加する」ことを決められました。近所の人たちが集まる場への初めての参加で、出合いの機会が生まれました。

小松原北町南部町内会は世帯数約二〇〇、その内、町内会会員数は約一一〇です。

当日、三十六度を超える暑さの中、十名の各組長さん、二名の地域委員さんを中心に、会場である松原寺さんのお地藏様にお飾りや、お供え

をして、提灯を吊るして子ども達、近所の方をお出迎え致しました。お地藏様ご開帳から始まり、家庭用品景品、お供養品渡し、子どもあそびコーナー、全員でビンゴ大会、おやつ、午後は、大道芸の方によるマジックショーと皿回し、住職さんのお話を聞いた後、数珠回し、福引き等のプログラムがありました。

小八木さん、宮川さん、加藤さんの三人はヘルパーと一緒に午前中に参加され、子ども達や町内の住民と混じり合いながらお地藏様の参拝をされた。ビンゴゲームの時には周囲の人たちと盛り上がりながら、また他の方からうちわであおいでもらわれ涼を取りなが

ら、いいものを当ててもらいました。

町内の一角で地域住民の手で行われる子ども達を中心とした小さなお祭りですが、世代や障がいを超えた、近所の大切なコミュニケーションの場になっていくことを実感した一日でした。

京都市民福祉センターの活動には皆様からいただいた寄附金の一部も充当させていただきます。



小松原北町南部町内会地藏盆

## センター往来

◎8月20日(土)地元元四丁目町内会の地藏盆が、例年通り東館2階で、にぎやかに行なわれました。また、夜は足洗いがあり、西陣児童館中山館長が参加させていただき、地域の方との交流を深めました。

◎8月21日(日)小松原北町南部町内会(2016年度、町内会長を担っている)の地藏盆に浅田常務理事、デイセンターふらつと本林副所長が参加し、松原寺さんでにぎやかに行なわれました。

◎8月21日(日)西亀屋町内会の地藏盆にデイセンターふらつと五十嵐がお手伝いさせていただき、夜の足洗いは、浅田常務理事が参加しました。

◎9月11日(日)西陣の朝市マルシェ(西陣児童公園にて)に出店して、地域住民の方々との関係を広げ、盛り上げました。

### 職員人事(常勤職員)

#### 退職

居宅サービス係

林 博美(8月31日付)

川口 絢野(9月30日付)

支援センターにしじん

此和 真菜(7月31日付)

## 熊本地震支援金の報告

西陣会各事務所に募金箱を設置し、多くの方々より支援金を頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。

総 額：33,064円 送り先：日本福音ルーテル健軍教会 熊本地震・児童館活動支援募金

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700 迄ご連絡下さい。

### 社会福祉法人 西陣会

。法人本部

。京都市民福祉センター

。地域活動支援センター

。ふらつと

。地域生活支援事業

。レスパイトサービス

。西陣児童館

。京都市障害のある中高生の

。タイムケア事業 ういず

。西陣会居宅サービス係

。京都市上京区元誓願寺通り千本

。東入る元四丁目四三〇番地の三

。TEL(075)451-1897

。FAX(075)451-1570

。デイセンターふらつと

。京都市中部障害者地域生活

。支援センターにしじん

。京都市上京区西堀川通元誓願寺

。上ル堅門前町四一四

。TEL(075)417-2630

。FAX(075)451-1369

。西陣産業会館1F

。京都市北部障害者地域生活

。支援センターきらりリンク

。京都市左京区上馬場町二七一

。フアライースト白川通一階中

。TEL(075)751-0206

。FAX(075)751-0207

。西陣会ホームとなり

。ショートステイ ゆう